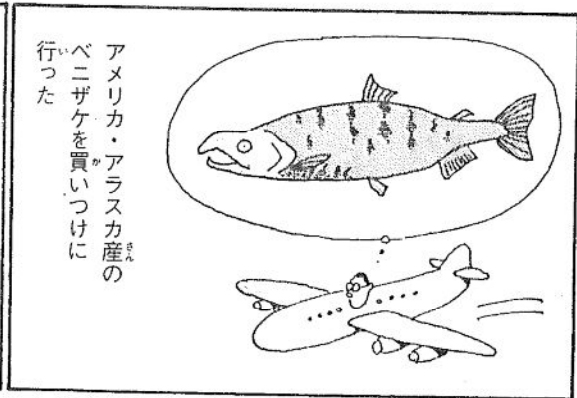
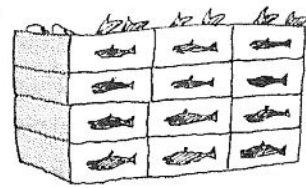


「魚を世界がもとめている」…の巻

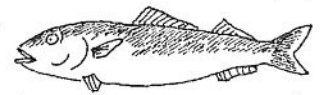
前川しんすけ



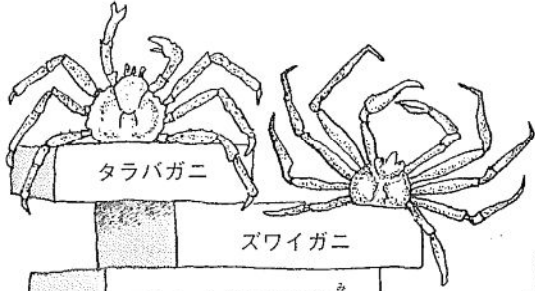
水産会社の人に
してみれば
高値で買っても
スーパ―や
おすし屋さんが
買ってくれず
倉庫につんだ
ままになって
しまう
おそれが
あるから
買いつけられ
なかったのじゃ



北アメリカ産の
ギンダラも
輸入量がへって
これ価格が
上がった
買いつけられ
なくなったため



ほかの国の方が
日本より高い値段で
買い取り
日本が「買い負け」
する例がふえてきて
おる



日本より
高い値段で
買い取り

カナダ

韓国

ひとりあたりの年間消費量 (は30年前との比較)

ヨーロッパ連合
(EU)



25・8キロ

3割まし

北アメリカ



22キロ

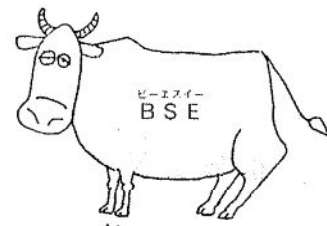
5割まし

中国



25キロ

5・3倍



鳥インフルエンザ

なぜふえてきたか
というところ
欧米(ヨーロッパ)
では
牛海綿状脳症
(BSE)や
鳥インフル
エンザによる
食肉不安から
魚介類に目が向け
られるようになった
こと

欧米



水産物の
おもな
輸出国である
アメリカと
中国の
輸出先も
10年前に
くらべて
大きく
かわった

中国

アメリカ



中国では
経済が
発展して
収入が
ふえたことが
あげられる



中国



収入
アップ!!

